学校番号	３０２９

令和８年度　芸術

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	高校生の音楽２　（教育芸術社）音Ⅱ　７０２						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歌唱（合唱を含む）・器楽（リコーダー、ギター、等の）演奏・創作・鑑賞を柱に学習する。
・音楽Ⅱは音楽Ⅰからの連続履修を原則とするが、進路等の理由で選択変更もあり得る。音楽系の進路を考えている生徒は,早めに担当者まで相談に来ること。
・選択者へアンケートを実施し、生徒の状況及び実技レベル等により、適切に教材を選択する。

2　学習の到達目標

・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
・個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。
・主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ，音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けている。 音楽を形づくっている要素を知覚し、感受しながら、楽曲や演奏を解釈し、価値を考えたりして、理解を深めている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫している。どのように演奏し、表現するかの意図をもっている。	音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
後期	歌唱	【合唱】 発声法 混声三部、 混声四部	a：曲にふさわしい発声の仕方で歌唱している。互いに協調して音楽をつくりあげている。 b：合唱の表現上の効果を理解し積極的に表現している。各パートのバランスなどに注意して表現している。 c：合唱の楽しさを体験しようとしている。	演奏の聴取	演奏の聴取	活動の様子
	鑑賞	【西洋音楽】 曲の背景・内容の理解	a：曲に使われているさまざまな楽器の演奏法を理解している。 c：曲の背景について理解を深めようとしている。作曲者や時代による表現の違いを理解しょうとしている。	提出物		活動の様子
	合奏	【器楽合奏】 様々な楽器に取り組む 小合奏 全体合奏 アンサンブル	a：楽器の響きや特徴を生かして主体的に演奏している。音量やフレーズを意識し調和のとれた合奏をしている。 b：音楽を形づくっている要素を知覚し、特質や雰囲気を感受しながら、音楽に対する理解を深め、美しさを感受している。 c：自ら進んで様々な楽器に取り組み、互いに協力して音楽を作り上げようとしている。	演奏の聴取	演奏の聴取	活動の様子
	創作	【音楽理論】 音符・標記法 音程 音階 リズム創作 編曲	a：イメージに沿った旋律やリズムの組み合わせ方、記譜の仕方など必要な創作技能を身に付けている。 b：記譜上のルールに従って、リズムや旋律を表現している。 c：リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受し、主体的に取り組もうとしている。	演奏の聴取	演奏の聴取	活動の様子
	発表	【演奏発表】 選択者による校内発表又は、地域別音楽会参加	a：各パートの特徴や役割を理解し表現している。 b：効果や表現方法を考えて、曲の雰囲気を作り出している。 c：自ら進んで主体的に演奏に取り組もうとしている。	演奏の聴取 実技試験	演奏の聴取 実技試験	活動の様子

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度